

何の音楽だろう【 】

① 音楽を聴いて気付いたこと

【 】の音楽

声(太夫)

② どんな声?語り方?

② どんな音?弾き方?



二つの関わり方

義太夫節

声(太夫)

- ・ 旋律はなく、喋る。一音一音を短く語る。三味線の拍子にのってリズムカルに語る。(詞・コトバ)
- ・ 抑揚を付けて語っている。(色)
- ・ 延ばしや揺れが多く旋律がある。歌っている感じ。(地)

太棹三味線

～声がある時～

- ・ 合図 (合の手)
- ・ 伴奏 声と同じ音の場合や、寄り添っている場合がある。
- ・ BGM 長い詞の後ろで演奏される

～声がない時～

- ・ 太棹三味線のみ (間奏・効果音)

他の楽器(効果音)

「昨日の仇は今日の味方、あら心安や嬉しやな。これぞこの世の暇乞ひ」と振り返つて竜顔を見奉るも目に涙
いまわ

今際の名残りに天皇も見返り給ふ別れの門出

とゞまるこなたは冥途の出船

さんず

せぶみ

こうべ

『三途の海の瀬踏せん』と碇を取つて頭にかづき「さらば、さらば」も声ばかり、渦巻く波に飛び入つてあへなく消えたる忠臣義臣、その亡骸は大物の千尋の底に朽ち果て、名は引く汐に揺られ流れ、(流れ流れて)跡白浪とぞなりにける

なきがら

ちひろ

陸に源平戦ふは、取りも直さず修羅道の苦しみ。

又は源氏の陣所々に数多駒の嘶くは畜生道。

一門我が子の身に報ふたか、是非もなや。我れ

かく深手を負ふたればながらへ果てぬこの知盛、

只今この海に沈んで末代に名を残さん。大物の

沖にて判官に仇をなせしは知盛が怨霊なりと

伝へよや。サア息あるその内に、片時も早く

帝の供奉を頼むく」

とよろぼひ立てば

「オ、我れはこれより九州の尾形方へ赴くなり。

帝の御身は義経がいづくまでも供奉せん」

と御手を取つて出で給へば

亀井

駿河

武蔵坊、御跡に引添ふたり

知盛莞爾と打ち笑みて

「昨日の仇は今日の味方、あら心安や嬉しやな。これぞこの世の暇乞ひ」

と振り返つて竜顔を見奉るも目に涙

今際の名残りに天皇も見返り給ふ別れの門出

とゞまるこなたは冥途の出船

『三途の海の瀬踏せん』と碇を取つて頭にかづき

「さらば、さらば」

も声ばかり、渦巻く波に飛び入つてあへなく消えたる忠臣義臣、その亡骸は大物の千尋の底に朽ち果て、名は引く汐に揺られ流れ、跡白浪とぞなりにける